



ひろがれっど

2024
第64号

【ひろがれ、かさなれ、むさしののわ】



特集

「いくつになっても
働きたい！」
を支援する

●むさしMONO

副島太郎さんの刺繍作品
(ワークセンター大地)

●たて糸よこ糸

「Janus Creation」小林良子ちゃん

●えすがれっど

心つかまれる風景
石橋 拓郎

あと5分?
野口 武蔵

●笑門来福

お祝い・お祭り・お楽しみ

●シン・ワンポイントアドバイス

秋バテ知らずの体作り

今の自分に合った働き方を見つけた!

interview ● 武蔵野福祉作業所で働くAさん



- Q1. 以前のお仕事について順番に教えてください
- ・クリーニング工場: 仕分けや洗濯したものを干したりする仕事でした。
 - ・区の作業所: 公園清掃、さをり織りなどをしていました。
 - ・特例子会社: 区民センターの中にあるカフェで、厨房の洗い物や洗浄をしていました。シフト制で6時間勤務です。人手が足りない時はホールで接客をすることもありました。
 - ・武蔵野福祉作業所に移りました。

Q2. お仕事を変えた理由を教えてください

会社都合や周りのスピードについていけないと感じたからです。疲れました。

Q3. お仕事を変わってみてどうですか?

武蔵野福祉作業所は自分でネット検索して見つけました。作業はお菓子の箱作りや商品詰めをしています。作業のペース配分もこれまでの仕事に比べてしやすく、働きやすいです。作業の他には、研修会や体操の活動に参加したり、自治会役員に立候補したりしています。作業所は楽しいです。

Q4. お仕事を変えてみたいと思っている人に一言メッセージをお願いします

ネットを検索してみたり、お母さんやお父さん、周りの人に相談して決めることをお勧めします。

武蔵野福祉作業所 (就労継続支援B型)

→地図 P.8-A



はたらく

スタッフ★コメント

Aさんには「自分のペースでゆっくり作業をしたい」というご希望がありました。安心して作業所の生活が送れるよう、ご本人の気持ちを伺いながら一緒に考える支援を心掛けてきました。自分のペースで作業を行うことで、身体や気持ちの負担が少なく、自分に合った働き方ができているように感じます。



武蔵野福祉作業所 竹澤職員

「いくつになっても働きたい!」を支援する
 当 法人の就労支援¹⁾では、加齢や心身の状態、職場環境の変化などの理由により、企業で働くことが困難となった場合に、福祉的就労を希望される方のご相談をお受けし、その方に合った就労継続支援事業所³⁾をご利用いただくことを希望されています。今回の特集では、新たな環境で働き続けることを希望されたご利用者のインタビューを通して、私たちの取り組みについてご紹介します。

ジョブアシストいんくる (就労移行支援・定着支援)

→地図 P.8-D

企業就労している方がセカンドステージとして福祉的就労を選択するケースは以前からありましたが、最近少しずつ増えてきているように思います。実際福祉的就労を選択した方々の様子を見てみると、企業就労時に感じていた緊張感やプレッシャーが減り、持ち前の能力を発揮しやすくなり、毎日を充実して過ごされている方が多いようです。

また、現在企業就労している方の中でも、「定年退職したら地元の作業所に通ってもう少し頑張ろうかな」と話す方もいらっしゃいます。

いんくる 後藤職員

*1 ワークセンター(けやき(就労継続支援A型・B型)、武蔵野福祉作業所(就労継続支援B型)、ワークステージりぶる(就労継続支援B型)、ジョブアシストいんくる(就労移行支援、就労定着支援)

*2 障害のある方が一般企業で働くことが難しい場合に、一人ひとりに合った福祉サービス事業所の支援を受けながら就労する働き方のことです。

*3 障害者総合支援法に基づき福祉的就労サービスを提供する事業所で、A型(雇用型)とB型(非雇用型)があります。

新しいステージをみんなで応援

Bさんの暮らしは就労や住まい、余暇などさまざまな場を支えられています。ご家族や支援者とのつながりを大切にしながら対話を重ね、Bさん自身が「自分らしい働き方」を実現できるよう、各事業所で応援してきました。

interview ワークセンターけやきで働くBさん



Q1. お仕事を変えた理由を教えてください

親会社が別の会社に吸収合併されることになったんです。それで、勤務地が青梅から千葉の柏に移ることが決まったんです。会社とは何度も話し合いを重ねたのですが、仕事を辞めることを選択することになりました。そこで、あいるの職員に相談して、けやきを見学、実習することになりました。けやきでの実習を終えて、びーとの職員とも相談して、けやきで働くことを決めました。

Q2. お仕事を変えてみてどうですか？

けやきでの作業は、たいへんなときも、そうでないときもありますが、やりがいを感じています。9時45分から15時30分まで働いています。立ち仕事で中心で疲れるので、午前中と午後、15分ずつ休憩しています。通勤はとても楽になりました。会社に通っていたときは90分かかっていました。今はバスで通っていて45分ぐらいです。給食も美味しいですよ。今年で63才になりますが、これからも頑張ります。

Q3. 生活は何か変わりましたか？

けやきに通うようになってからは、けやきが終わった後に時間ができて、コミセンに卓球に行ったり、デパートに買い物に行ったりできるようになりました。趣味がたくさんできて楽しいですよ。グループホームでも、ゆっくり過ごせるようになりました。自分の部屋で絵を描いたりしていますよ。

スタッフ★コメント

企業就労していた頃、「定年まで仕事を続けたい」と希望していたBさん。

びーとでは、安心して仕事を続けられるよう就労支援センターあいる[※]の登録を提案しました。あいるが就労先を訪問してご本人の仕事ぶりを社員の方に伺い、Bさんの働きをサポートしてきました。その後、Bさんは「自分のペースや体力に合った場で働きたい」とあいるの職員に相談し、希望に合った働き方になりました。けやきの実習を終え、「次はけやきで頑張りますから」と報告に来てくれたことを今も覚えています。

びーと 大久保職員

※障害がある方への企業就労をサポートする事業所

地域生活支援センターびーと
(地域活動支援センター、指定特定・一般相談支援事業所)

→地図 P.8-B

ワークセンターけやき
(就労継続支援A型・B型)

→地図 P.8-C

はたらく

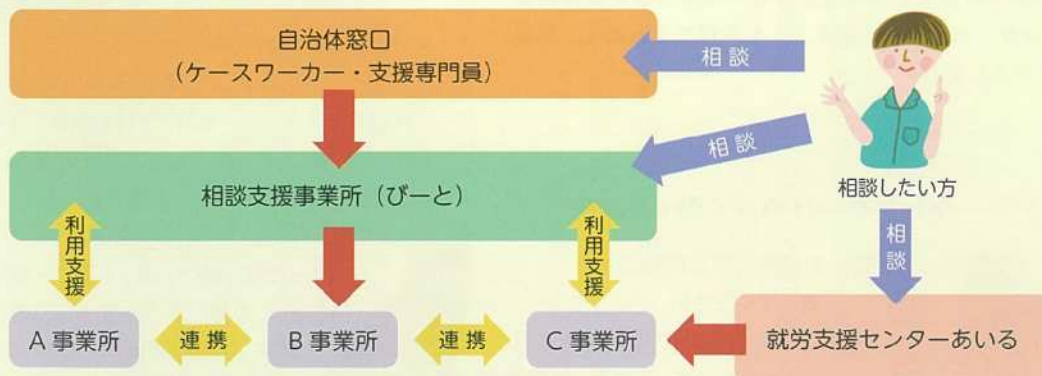
スタッフ★コメント

退職後も「働きたい」という気持ちが強かったBさん。けやきでも意欲的に働いています。疲れやすくなっているため、身体への負担軽減を図るなど工夫しています。働く意欲はもちろん、必要に応じて相談できること、相談できる人や関係機関とつながっていることがBさんの強みです。これからもBさんの望む働き方の実現に向けて、一緒に模索していきたいと思っています。



ワークセンターけやき
松井職員

社会福祉法人武蔵野 相談から福祉的就労までの流れ



- ・意向の共有 (調理の仕事がしたい!)
- ・実習計画 (A・B事業所で2週間ずつ実習)
- ・アセスメント (就労チェックシート)
- ・サービス利用に関する提案 など

A事業所を利用します!

例えば、こんな流れです。

- ① 「あいる」「びーと」「自治体」などへご本人が働き方について相談。
- ② 「びーと」から就労支援事業所へ情報共有。
- ③ 就労支援事業所の中から、ご本人に合った働き方ができる場所を見つけるため、聞き取りや実習を行う。

ご相談はお気軽にこちらまで!



- ・ワークセンターけやき ☎ 0422-54-5096
- ・武蔵野福祉作業所 ☎ 0422-53-1782
- ・ワークステージりぶる ☎ 0422-60-2663
- ・ジョブアシストいんくる ☎ 0422-50-1701
- ・地域生活支援センターびーと ☎ 0422-54-5171

ライフステージに合わせた働き方を支える

企業で働き続けることが何らかの理由で難しくなったとしても、「もっと働きたい」という思いをおもちの方が、「希望する次の働き方」をよりよく選択できることが大切であると考え、私たちは取り組みを続けています。

次の働き方を模索される方には、「加齢に伴い、緩やかに働きたい」、「新しい仕事にチャレンジしたい」など、人それぞれにさまざまな希望があります。それらの希望にお応えできるよう当法人就労支援事業所では、封入作業やレストラン、喫茶店、パン製造、印刷など多様な業種とともに、さまざまな年齢層の方が働きやすいような環境づくりをしています。

ご利用の相談は、上図のようにご希望を伺い、その方に合ったサービスにつなげられるよう複数の就労支援事業所が連携し、見学や体験実習等を通して、最終的に利用される事業所を選んでいただいています。

働くことごの目的や目標は一人おひとり違いますし、その方の時期や年齢、暮らしによっても変わってきます。その違いや変化に柔軟に対応し、より多くの希望を実現できるよう、これからも働く場としての質の向上に努めてまいります。

福祉的就労をお考えの方は、ぜひご相談ください (障害のある方を雇用されている企業の方からのご相談もお受けしています)。



新たな魅力をふきこまれた作品



ギャラリーに展示された作品の前で

副島さんに、作品作りに取り組む際のテーマを伺うと、「布がブラックだから地球のブラックホール。何でもアリ!」「刺繍雑誌を見て、設計図を頭に入れて刺繍をやっている」と、熱心に説明してくれました。先日は武蔵野市にあるギャラリー「ジェイナス・ク

(ワークセンター大地 石井 淳司)

副島さんも一緒に作品展示を見に行つて、お客様から関心を寄せられたり、褒められたりしたことで、次への意欲につながったようでした。今後は刺繍作品で、赤ちゃんのよだれかけやベビーカーのカバーを作ったり、お客様からリクエストがあれば、その商品を作りたいとおっしゃっていました。これからも副島太郎さんの世界が刺繍作品とともにさらに広がっていくことが期待されます。

今回は、ワークセンター大地の副島太郎さんの刺繍作品をご紹介します。副島さんの刺繍作品には、色とりどりの糸が使われていて、それらの糸をさまざまな形、模様に縫っていきます。刺繍に取り組む際には、かごの中に入ったたくさ

んの糸の中から好きな色の糸を選んで、それらをつなげたり、重ねたりして彩られています。その場では図案を見ることも、職員が印をつけることもなく、頭の中で描いたものをひとり黙々と手を進めていきます。出来上がった刺繍作品は、ボランティアの方々の力をお借りして、ポーチやバッグなど「つむぐと」の商品に生まれ変わります。その商品は、イベントやセンター1階のベーカリーカフェ「パールブーケ」などで販売をしています。

むさし
MONO

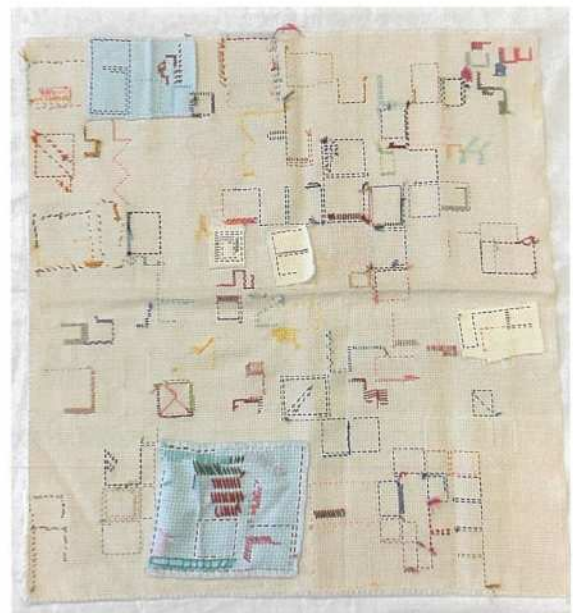
新連載

10年以上にわたり掲載してきた「食を通じて地域とつながる」改め新コーナーです。初回は拡大バージョンでお送りします。

副島太郎さんの刺繍作品 (ワークセンター大地)

法人内で生み出される「もの」とその「もの」がたり

→地図
P.8-E



「ショートケーキ」

たて糸 よこ糸

よりよい地域づくりを
めざして活動している
団体等を紹介します。

ジェイナス クリエイション
Janus Creation

〒180-0013

東京都武蔵野市西久保 1-6-20

TEL: 0422-51-1480

<https://janus-creation.jp>



ギャラリー主宰の小林良子さん（右）
とカフェ責任者の小林美菜子さん（左）

「誰かによく見せたい」というような下心がなく、ただ自分がやりたいこと、作りたいものに集中する姿に、感動しました」

社会福祉法人武蔵野（以下「武蔵野」）のご利用者たちのキルト作りの様子について、こんなふうにご語ってくださったのが、キルト作家でもあり、ギャラリーカフェ「Janus Creation」（以下「ジェイナス」）を主宰する小林良子さん。

昨年の2月に「武蔵野」のご利用者が参加したキルトワークショップを振り返りながら「キルトにはもともと、アメリカの女性たちが社会とつながる手段として使われてきた歴史があります。ですから、障害のある方々とアートのプロと地域の人々が、共に1つの作品を作り上げることに、とてもキルトらしい意義深さを感じます」と、キルトの特性にも触れながら話してくださいました。

このワークショップは、「つむぐと」（ご利用者と一緒にもものづくりをし、販売する「武蔵野」のブランド）のクラウドファンディング支援者でもあり、ご利用者たちのアート作品に以前から興味があった

野村奈央さんや、キルト作家の木嶋愛さん、国際キルト研究所のマリン・ハンソンさんらが集まり、そこに地域の人々やボランティアのキルターも参加。最終的に100名近い人々で作品を作り上げるプロジェクトになりました。

普段は「武蔵野」の職員との関わりだけが主な会社との接点だというご利用者も多いのですが、プロと接することで、いつも以上の力が引き出されたようです。一人ひとりが作った部分がつなぎ合わされ、一つに仕上がったキルトのタペストリーを展示する場として「ジェイナス」にはご協力をいただきました。

このワークショップ以後も、「ジェイナス」と「武蔵野」との関係は続きます。春と秋の年2回行われる展示販売では、「つむぐと」のセクションが設けられています。作品を見てもらう場ができることで、ご利用者にとっては創作の励みにもなっているのです。

「ギャラリーは作家が作品を発表する場ですが、誰もが自由に鑑賞する場でもあります。どんどん使ってほしいし、もっと作品を見てほしい。ただなんとなく

くつろぐためだけでもいいので、気軽に立ち寄ってほしいです。『習い、作り、そして見てもらう場所』として、地域の人のための『みんなのギャラリー』であり続けたいし、今後企画するクラフト展にも「つむぐと」からどんどん出展してほしい」と、小林さんは今後の展望についての思いも語ってくださいました。

「ジェイナス」併設のカフェでは、おいしいお茶やケーキもいただけます。美術やクラフトの本、児童書や洋書などの本棚もあり、自由に読むことができます。地域の「みんなのギャラリー」を目指す「ジェイナス」へ、ぜひアート鑑賞に行ってみてはいかがでしょうか。

（聞き手）「デイセンター山びこ」佐藤 直子



2023年のワークショップで出来上がった幅4mの大きな
キルトのタペストリー



ふれあいのロゴマーク！

障害のあるお子さんが就学前に通う施設での給食中、発語の難しいお子さんが「しゅうまい」の絵を一生懸命、指差していました。メニューに焼売はありません。「今日はないよ」と伝えますが、指差しは続きます。やりとりをしていると、焼売が食べたいわけではなく、残っているおかずは何かにヒントがある様子でした。しばらく頭を捻りました。「ひょっとして、焼売にかける醤油のことかな？」と、おかず

に醤油をかけてみたところ、食具を伸ばし食べてくれたのです。そうか、「しゅうまい」の絵がなかったから、代わりに「しゅうまい」の絵を指差して伝えてくれたのか。この仕事に就くにつかかとなった学生時代の社会福祉士実習での風景です。

ご利用者と活動をとにもする中で、ふれあいの「イイ感じ」の風景を趣味の曲作りで表現してみようと思いい立ち、できたのが「ふれあいのうた」です。水曜日の活動で音楽演奏して下さっている方々に音源を聴いてもらうこと、なんと曲目に入れてもらえることに！心つかまれる風景は伝播していくと思いました。ふれあいのロゴマークは、重なり合いながら、中心から外に向かって広がるいくつかの輪が描かれています。そのメッセージも歌詞に込めました。「わたしとあなたが触れ合い あなたと誰かが触れ合う いくつも重なり広がる輪」。ご利用者と地域との輪が重なり広がっていくよう日々努めていきます。

心つかまれる風景

デイセンターふれあい

石橋 拓郎

→地図
P.8-F

えすふれつそ

ちょっとひといき♪ 心がほっと温まるスタッフの日常をお届け♪

あと5分？

グループホームくすの木

野口 武蔵

→地図
P.8-G

くすの木で、ご利用者の皆さんは自由に余暇時間を過ごしています。居室やリビングでテレビ、ネットや雑誌を見たり、外出など、それぞれのしたいことを自分で決めて楽しんでいます。それとあわせて、生活の中の必要なこともできる限り自分で進められるように支援しています。洗濯したり掃除したりと、一部は職員と一緒に日々

の身の回りのことに取り組んできました。朝の起床もそのひとつ。職員が声をかけなくても、皆さんきちんとそれぞれの出発に間に合う時間に起きています。

そんなくすの木の生活ですが、年末年始やゴールデンウィークなどの長期休暇後にはいつもより起床時間が遅くなる場合があります。「あれ、いつもの時間だけ起きてこないな。あと5分くらいしたら声をかけようか」と考えていると、ゆっくりと居室から出てこられて朝の準備が始まります。普段の起床時間に十分な余裕があるため、少しくらい起床が遅くなっても遅刻することはありません。うんうん、休み明けで起きるのは億劫ですよねと、連休明けにはあと5分布団に入っていたい自分と重ねつつ、遅刻せずにきちんと出発していく皆さんを送り出しながら私自身も改めて気を引き締めています。



今日も元気に出発！

